

北里大学北里研究所病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	成長期サッカー選手における身体機能と成長期スポーツ障害の発症の関係 (No.18013)
当院の研究責任者 (所属)	倉坪 亮太 (リハビリテーション技術科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	渡邊 裕之 (北里大学 医療衛生学部)
本研究の目的	<p>成長期は筋柔軟性の低下、筋力や持久力の不足、技術的な未熟さなどによりコンディショニング不良が起りやすいです。また、成長期における成長軟骨や靭帯・腱の付着した骨端部などは構造的に脆弱です。そのため、成長期スポーツ障害は、コンディショニング不良が生じた状態でスポーツ活動を行うことにより、構造的に脆弱な部分に機械的な過負荷が掛かり発症すると考えられています。</p> <p>発育段階は個人差が大きく、暦年齢を用いて発育段階を評価することは困難であるため、スポーツ障害の好発時期は暦年齢での判断が困難です。一方で、身長成長速度曲線を用いた発育段階の分類は、身体的な発育を反映した分類方法であるため、成長期スポーツ障害の発症の予測に適していると考えられています。しかし、身長成長速度曲線の発育段階ごとの筋柔軟性や筋力やバランスなどの身体特性については明らかではありません。成長期における発育により生じたコンディショニング不良の実態を明らかにすることは、成長期スポーツ障害の発症予防の一助となると考えられます。</p> <p>そこで本研究は、身長成長速度曲線の各発育段階における身体特性と成長期スポーツ障害発症の関係を明らかにすることを目的に実施します。</p>
調査データ 該当期間	2005年3月から2029年3月
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さま 上記期間内に神奈川県私立中学サッカー部にて実施しているメディカルチェックを受けた部員</p> <p>●利用する情報 メディカルチェックの結果 (現病歴、既往歴、身長、体重、競技歴、エコー画像、関節弛緩性、筋柔軟性、片脚立位時重心動揺、筋力、パフォーマンステストなど)</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はない
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません
お問い合わせ先	電話：03-3444-6161 (北里研究所病院代表) 担当者：リハビリテーションセンター 倉坪 亮太 (くらつぼ りょうた)
備考	